

彦根を
元気に!



細江 正人

NEWS LETTER vol.1 2011.08.13.
県議会活動レポート 発行 細江 正人事務所

事務所 〒522-0052 滋賀県彦根市長曾根南町437
tel.0749-24-2112・fax.0749-24-2114 (株)天農堂内
自宅 〒522-0064 彦根市本町2-2-44

自由民主党滋賀県議会議員団
〒520-8577 大津市京町4丁目1-1
tel.077-528-4010・fax.077-528-5110

www.hosoemasato.jp

@hosoemasato Facebook を利用しています。

略 歴

彦幼、城西小、西中、彦根東高13回卒、昭和45年京都産業大学経済学部卒業、あなたの本棚 天農堂 前代表取締役、滋賀教科図書販売株式会社取締役、青年団活動から社団法人彦根青年会議所役員を経て、現彦根ロータリークラブ会員

公 職

【元職】彦幼・城西小・西中・彦根西高等学校PTA会長／彦根東高等学校 学校評議員／中小企業大学校 登録講師／滋賀県書店商業組合 副理事長／彦根市議会議員
【現職】彦根商業開発協同組合(ビバシティ専門店街)理事長／湖東定住自立圏共生ビジョン懇談会委員／彦根市都市計画審議会委員／滋賀県議会議員／政策・土木交通常任委員／防災対策特別委員

想うことなど……

■思い立ったが吉日とばかり、FacebookとTwitterを始めた。テレビのチャンネルが丸い時代の人間としては、ボタンがいっぱい配されたステレオを経験し、リモコンの機能を覚えきれず、いつのまにか、一つのボタンに沢山の機能がある時代になった。コンピュータなどでできれば触りたくないと思っていた。

案ずるより産むが易しとはいうが、予想通り悪戦苦闘しながら、解らないことだらけだが、何とかなった。今は何もかも、目新しく、いろいろと学んでいる。素晴らしい世界だと思うが、このツールをどう活用するのか、問われていることも確かだ。

■今年10月15日、松竹映画「一命」のロードショーが始まる。原作は「異聞浪人記」滝口康彦著(1958年)で、仲代達矢の主演で「切腹」として映画化されたこともある。「異聞浪人記」は今「一命」(講談社文庫)に収録されている。この話、井伊直孝の時代、江戸井伊家の上屋敷を舞台に、武家社会に立ち向かった2人の侍の生きざまが描かれている。愛の物語が根底に流れているのだが、武家の建前は現代の政治にも似ている。貧しくとも愛する人と共に生きることができるとは幸せなのだと思う今日この頃である。

6月定例議会 細江正人の質問(一覽)

「彦根市立病院への支援と地域医療」について

- 彦根市立病院の産科支援について
- 院内助産所をどのよう
に評価しておられますか
ではどうでしょうか
- 院内助産所の方向性は
どうでしょうか

2 滋賀県地域医療再生計画(湖東・湖北医療圏)について

3 医師確保のために行う知事
の努力に感謝して

4 平泉が登録された今、改めて知事の思いをうかがいます

1 平泉の粘りをどのように評価しておられますか
2 彦根城の何を売り込むか、
県としてのお考えは
3 彦根市との具体的な連携
について

未だ震災の傷が癒えぬまま、不自由な生活を余儀なくされておられます。東日本大震災に被災の方々にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をご祈念申し上げます。
私は震災の最中、彦根市選挙区で、多くの皆様のご支援をいただき、県議会に送り出させていただきました。
あらためて御礼申し上げます。ありがとうございます。
選挙戦前後の朝の駅立ちの折に募金箱を首に掛けて被災された方々への義援金をお願いしておりましたのが、10万117円になりました。ご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。自由民主党滋賀県連を通じて日本赤十字社へ送金しましたことを、報告させていただきます。
高校生の方々にもコインを託していただきました。何か力になりたいけれど、何をしたいかわからない」という気持ちからでしょう……。
私は、次代を担う人々に、少し長く生きた人として「心えたい」こそして「示したい」。ひとつの選択肢として、引き続きのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



撮影場所 彦根市本町/撮影 細江正人

彦根には、江戸時代の城下町で使われていた井戸が今も残っています。ガチャコンポンも健在で、暮らしの中で使われているものもあります。「鉄管ビール」と言って、冷たい井戸水を手で受け、がぶがぶ飲んだ時代を懐かしく思い出します。打ち水、

風鈴、緑のしつらえ……。夏を涼しく過ごす工夫が今も生きています。それは、通りを行きすぎる人々の目にも涼しい自分のための行為です。厳しい残暑がまだまだ続きます。節電やエコを叫ぶ前に、できることが、まだまだありそうです。



彦根市立病院について

前彦根市議会議員として彦根市立病院の課題を熟知していることから、一般質問として県議会本会議で質問しました。

県では国の特別補正予算による支援を活用して滋賀県地域医療再生計画(湖東・湖北医療圏)をとりまとめて現在事業化されています。なかでも医師確保の事業、特に新生児・周産期医療を担う医師確保のための寄付講座は湖東医療圏では大きな期待が寄せられており、その進捗状況は順調と伺いました。また、県下高等学校の協力を得て医学部へ進学している学生に届くようにと、実家の保護者へ、知事自らが故郷の病院の窮状を訴える手紙を託されていることを知りました。

病診連携の意義を周知し、彦根市立病院が、湖東一円の県民に全幅の信頼を得る病院であるために、国・県の支援を求めたいと考えます。



彦根城の世界遺産登録について

「平泉の文化遺産」が世界遺産登録され、復興の大きな力となると考えています。彦根城は世界遺産暫定登録されており、今年9月に彦根市内で「日本イコモス理事会」が開催される予定です。そこで、県としての考え方や彦根市との連携について質問しました。

イコモスは、1972年のユネスコ総会での世界遺産条約採択後、ユネスコをはじめとする国際機関と密接な関係を保ちながら、世界文化遺産の保護・保存、そして価値の高揚のための重要な役割を果たしてきた文化遺産保護に関わる国際的な非政府組織(NGO)です。

「日本イコモス理事会」の開催は「彦根城の世界遺産登録」への大きなチャンスです。

県との連携を図り、しっかりとした戦略のもとで、世界遺産登録へ向けて努力したいと思います。



定例会での答弁の詳細は、ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。www.shigaken-gikai.jp/